

平成二十七年 度

第一回

国語

一～四までのすべての問題に解答してください。

・ 百点満点です。

・ 試験時間は五十分間です。

・ 解答欄、解答のしかた等でわからない事があれば、質問してください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最悪のシーズンがやってきた。明日は五月二十五日のプール開きの日だ。こんなにも早くプール開きをするなんていったい誰が決めたんだろう。教育委員会とか、文部科学省とか。

「優太君。こっちこっち」

モー次郎がプールサイドに置かれたベンチに座って手招きしていた。三年B組の山田幸次郎だ。ブー次郎と呼ばれてもおかしくないほど太っているのだけれど、家が牛乳販売店なのでモー次郎と呼ばれている。

ベンチには将棋盤しょうぎばんが置かれている。それをよけて、ほくも腰かけた。

「さっき体育館の前でウガジンに捕まっちゃったよ」

「ぼくなんてウガジンが担任だから、絶対に逃げらんないよ」

モー次郎は丸い顔をさらに膨ふくらませた。

「今年も泳がなきゃなんないのか……。最悪だな」

「優太くんはまだましだって。ぼくなんかぜんぜん泳げないんだよ。なんで」
1
なのに水泳部に入らなくちゃならないんだよ」

「巻き込まれてるよなあ」

「前は将棋だけやってればよかったのにねえ」

モー次郎はうなだれるように将棋盤に目を移した。

去年の夏のことだ。それまで将棋部の顧問だった先生が体調を崩して学校をやめた。そのあと、^①将棋が得意だというウガジンが顧問になった。けれど、ウガジンにはちょっとした計算があったのだ。

この美里中の水泳部には正式な部員がひとりしかいない。この三年間ずっとだ。だから、ウガジンは将棋部の顧問も引き受けて、将棋部員だったばかりとモー次郎を水泳部の臨時部員として連れ出したのだ。つまり、ぼくらは好きこのんで水泳部に来てるわけじゃない。無理やりなのだ。

(中 略)

「いったいおまえは、どういうつもりでそんなことをしてるんだ！」

プールの入口まで戻ると、ウガジンの怒鳴り声が聞こえた。びくくりしてモー次郎と顔を見合わせる。おそろおそろプールサイドに行ってみると、ウガジンと姫が間近で向かい合っていた。

ウガジンは怒りの形相だ。両手を腰のあたりでぎゅっと握り、いまにも殴りかかりそう。なにをあんなんにも怒ってるんだろう。② 対照的に、姫はへらへらと笑っている。なんかやばい。A 雰囲気だ。

「もう一度訊くぞ。おまえは、どういうつもりで③ そういうことをしてるんだ」

「そんなに深い意味があつてやったわけじゃないつすよ。ちょっとかつこいいかなあつて思つて」

姫が笑いながら髪を掻き上げた。耳があらわになって、耳たぶに赤いピアスが見えた。小さくてきらきらとした石だ。ガーネットだろうか。

「ありやー」

モー次郎が緊張感のない声をあげる。ウガジンと姫がぼくらに気がついた。姫はうんざりとした目つきでこちらを見る。助けてくれよ、と訴えてきていた。

「岡本。ちゃんとこつちを向け」

ウガジンがまた怒鳴る。姫は洪々前を向いてから言った。

「分かりましたよ。取ればいいんでしょ、取れば」

姫がピアスをはずそうとする。

「そういうことを言ってるんじゃないんだよ。自分がたつたひとりの正規の水泳部員だつて自覚はなかったのかつて訊いてるんだ」

「正直に答えたほうがいいですか」

「なにい？」

「いや、正直言えば、④ ぜんぜんなかったんで」

「お、ま、え」

ウガジンの顔が鬼の面のように変わった。だが、必死に怒りをのみ込んだらしい。一度がっくりと肩を落としたあと、穏やかな表情でこわいくらい静かに言った。

「岡本。あのとき、おれがどんなに大変な思いをして水泳部を残したと思う？」

ぼくらが一年生のときのことだ。美里中水泳部の三年生が、海王市にある海王中の水泳部にけんかを吹っかける事件があつた。2、水泳大会が開かれている最中にだ。自由形リレーで負けた腹いせに因縁をつけたらしい。

けんかはその場ですぐに治められた。

3

、後日、美里中の三年生部員が二年生を引き連れて、海王中に乗り込んだのだ。木刀や鉄パイプを持っていたので、警察沙汰となった。三年生と二年生は全員退部となり、水泳部は廃部が

決定的になった。もともと水泳部はガラが悪いことで有名で、新入部員もろくに入らない部であつたため、学校としてもいい厄介払いになるとよろこんでいたらしい。

しかし、そこでウガジンがひとり廃部に大反対した。理由は一年生だからということでけんかに置いてけぼりになった

姫が、小さいころから海王市のスイミングクラブに通い、たくさんの記録を打ち立ててきた将来有望な選手だったからだ。

その姫のために、水泳部を存続させようとがんばつたのだ。

そして、そのウガジンの思いは見事に実った。姫はいまや二百メートル自由形の県中学記録を保持している。一分五十九秒三五。本当にすごい記録なのだ。

「なあ、岡本。おまえのために水泳部を残したんだぞ。」^⑤学校の反対を押しきってな。それなのにおまえは……」

姫は困ったような笑みを浮かべた。

「おれだって先生には感謝してますよ。水泳しか取り柄がないおれなんかのために、水泳部を残してくれて。でも、それとこれとは関係ないじゃないですか」

ふたたび髪を掻き上げてピアスを見せた。ウガジンは目をつぶって首を振った。

「見せなくてもいい。わかった。岡本の気持ちがよくわかったよ。おれの気持ちがわかっていないってこともよくわかった」

「先生……」

「学校にはピアスのことは黙っておいてやる。学校に来るときは必ずはずしてばれないようにしてこい」

「はあ……」

「いいな」

「はい」

「だけどな、岡本。おまえ、水泳部はクビだ」

重苦しい沈黙に包まれた。

「またまた冗談を」

笑おうとする姫をウガジンが制する。

「本気だ。もうおまえは練習に来なくてもいい。それから、優太も山田も将棋部に戻っていいぞ。おまえらを巻き込んで

悪かったな」

ウガジンは無表情のままぼくらに言った。^⑥うれしいはずなのに、悲しい気持ちが胸の奥で揺れた。なんだかウガジンがかわいそうだった。飼犬に手を咬まれるという言葉は、こういうときにふさわしくないかもしれないけど、選手として大切に育ててきた姫に、あっさりと裏切られるなんて同情せずにはいられない。見ていられなくて、ぼくは思わず目を伏せた。

ところが、モー次郎が場ちがいなよろこびの声をあげた。

「ほんとですか！もう水泳部に来なくてもいいんですね。やったあー」

はしゃぎ声にめまいのようなものを覚えて、モー次郎の尻に強烈な蹴りを見舞ってやった。すぐに耳打ちする。

「よろこぶところじゃないだろ」

「なんでさ」

モー次郎が睨んでくる。ほんとに空気の読めないやつだ。

ウガジンが呆れきった視線でぼくらを見てから、姫に向きなあった。

「岡本。おまえは泳ぐことにかけて本当に才能があるよ。でもな、いくら才能があっても心がついてこない人間をおれは認めない。」

(関口尚「空をつかむまで」より)

問一 線部A「雰囲気」、B「穏やかな」の読み方をひらがなで答えなさい。

問二 1 に当てはまる言葉として最適なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア トンカチ

イ ノコギリ

ウ カナヅチ

エ スコップ

問三 — 線部①「将棋が得意だというウガジンが顧問になった」とありますが、なぜウガジンは顧問を引き受けたのですか。その理由を本文中の語を用いて三十字以内で答えなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問四 — 線部②「対照的」とありますが、「対照」の意味として最適なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。
ア はたらきかけの目標や目的とするもの。めあて。
イ 二つのものの違いがきわだつこと。また、その取り合わせ。
ウ ものともとの対応しながらつりあいを保っていること。
エ 目的を達するために、犠牲にしたり失ったりするもの。

問五 — 線部③「そういうこと」が指す具体的な内容を十字以内で答えなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問六 — 線部④「ぜんぜんなかった」とありますが、何がなかったのですか。次の形に合うように本文中から抜き出して答えなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

十七字

だという二字がなかった。

問七

2

、

3

 に当てはまる言葉の組み合わせとして最適なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|-----|---|------|
| ア | 2 | しかも | 3 | そして |
| イ | 2 | つまり | 3 | けれども |
| ウ | 2 | つまり | 3 | そして |
| エ | 2 | しかも | 3 | けれども |

問八 — 線部⑤「学校の反対」とありますが、水泳部を残すことを学校側が反対する理由を本文中から四十字以内で抜き出し、始めと終わりの五字を答えなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問九 — 線部⑥「うれしいはずなのに、悲しい気持ちが胸の奥で揺れた」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちを六十文字以内で分かりやすく説明しなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問十 この文章の内容として当てはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ウガジンは将来有望な姫のために、学校の反対を押しきって水泳部を存続させた。
イ ウガジンが水泳部を存続させたことに対して、姫は感謝の気持ちをいだいている。
ウ ウガジンの気持ちを理解したぼくは、水泳部の活動に取り組む意欲が高まった。
エ ウガジンは才能だけではなく、選手自身の人間性も大切に考えながら指導している。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

すでに知られている地球上の全生物の種類数は、一七五万種に及ぶ。そのうち半分以上のおよそ九五万種が昆虫種だという。哺乳類の数はわずか六〇〇〇種だから、昆虫の方が一五〇倍も多いことになる。

もちろん、種類数ばかりではない。昆虫は体が小さいから、個体の数も圧倒的に多い。イギリスの昆虫学者C・B・ウィリアムズは、地球上にいる昆虫の数は、一兆の百万倍の一〇〇京匹と推定した。栄華を誇っているように見える人類の数が七〇億人だから、昆虫の方が一億倍も多いことになる。

① 何も知らない宇宙人が地球を観察したとしたら、間違いなく地球の支配者は昆虫だと結論づけるだろう。

この惑星の支配者たる虫たちだが、私たちにとっては何とも身近な存在である。

特に子どもたちにとっては、虫は② 格好の遊び相手である。

夏休みになれば、子どもたちは網を持って虫捕りに出掛けて行く。

へ ア へ

かくいう私も、子どものときには、虫捕りに夢中になったものだ。

夏休みになれば、セミ捕りやトンボ捕りを楽しんだ。虫捕り網など使わなくても、^A素手でセミをつかまえて、虫かごをいっばいにしたものだ。

トンボ捕りも得意だった。シオカラトンボやギンヤンマ、アキアカネなどをつかまえた。子どもの頃に憧れだったのはオニヤンマだ。網の届かない高いところを颯爽と飛んでいくオニヤンマは、それはカッコ良かった。

残酷な子ども心にまかせて、アリの巣に水を入れたり、ア리를虫めがねで焼いたりして遊んでみたこともあるし、つか

まえたア리를アリジゴクの巣に落したり、ハエトリグサの葉の中に放り込んでみたりもした。

特に好きだったのは、バッタ捕りだった。小学校低学年のときには授業を抜け出してトノサマバッタを捕りにいったことさえある。

授業を抜け出したかどうかはともかく、虫捕りに夢中になった思い出は、男の子ならば、誰でも持っていることだろう。

へ イ へ

男の子ばかりではない。女の子だって、花に舞うきれいなチョウチョウをお絵かきした思い出があるだろうし、テントウムシがデザインされたアクセサリや服を身にまとったことだろう。子どもばかりか、大の大人だって、ホテルが出たと聞けば、小さな虫を求めて大勢で押し掛ける。

ちっけな虫けらとはいえ、私たちにとっては何とも愛すべき存在なのだ。

1、こんなにも虫に親しみを感ずる国は、世界でも珍しいらしい。

日本では、どこでも虫捕り網や虫かごを売っているが、私は、海外で日本のように子ども向けの虫捕り網を売っているのを見たことがない。

日本では昆虫の飼育ケースも売られている。アリの巣を観察したり、スズムシの^B音色を楽しんだり、日本人ならば、誰だって子どもの頃に一度くらいは虫を飼ったことがあるだろう。

中でも人気なのはカブトムシやクワガタムシである。

日本ではホームセンターやスーパーマーケットなどで、カブトムシやクワガタムシを気軽に買うことができる。高級デパートでも、カブトムシを売っているくらいだ。ムシキングというカブトムシなどの昆虫を題材にした人気のゲームもある。

へ ウ へ

江戸時代にはすでに「虫売り」という商売があったという。スズムシやキリギリスなどの鳴く虫やホタルを売って江戸の市中を歩いたのである。もちろん、こんな商売が成り立つほど、人々は虫を買い求めて楽しんだということでもある。

戦いに明け暮れた戦国武将さえも虫を愛していた。

③ 戦国武将は兜に前立てと呼ばれる飾りをつけるが、その前立てのモチーフとして好まれたのが、トンボである。古くから、トンボは「勝ち虫」と呼ばれ、縁起の良い虫とされていた。トンボは前に進んで退かないことから、武将たちに好まれたのである。実際には、トンボは後退しながら飛ぶことのできる器用さを持っているが、それでもトンボは前へ進むシンボリックな存在だったのだろう。現在でも、相撲の力士が着る浴衣にトンボがデザインされていたりする。

2 トンボは英語ではドラゴンフライという、かっこいい名前と呼ばれているが、神格化された日本の龍と異なり、西洋のドラゴンは嫌われ者の化け物である。ドラゴンフライという呼び名は決して好意的な呼び名ではないのだ。

へ エ ン
それにしても、猛獣や猛禽のように、戦いにふさわしそうな生きものは他にいくらでもいるのに、勇猛な武将が小さな虫を武器につけて戦うところは、何とも虫を愛する日本人らしい。

そう言えば、平家の代表的な家紋は、アゲハチョウだった。わざわざ昆虫を家紋にするというのも、西洋の紋章がワシやユニコーン、クマなど強そうな生きものをモチーフにしているのと比べると大きな違いだ。

3 、世の中にはトンボやチョウのように愛らしい虫ばかりではない。嫌われ者の害虫もいる。しかし、古人たちは害虫にさえも、深い愛情を注いでいた。

秋になると農村では、農作業によって殺してしまった虫の魂を供養する「④ 虫供養」と呼ばれる行事が行われる。そうして害虫の魂をなくさめたのである。

昔の人の迷信かと思うかも知れないが、現在でも、最新科学を研究しているはずの大学や研究機関で、実験で殺してし

まった虫の供養が普通に行われている。かくいう私も、年に一度は熱心に虫供養をしている研究者の一人だ。⑤ 虫を供養するような国は他にはないと、海外の研究者にはいつも笑われる。

そういえば、アメリカの大学を訪ねたときには驚かされた。学生たちが歩道にいるコオロギをわざわざ踏みつけて歩いていたのである。どうやら、彼らにとって虫というのは、たとえ害虫でなくとも、愛すべきものではなく、退治するものらしい。虫を見ると殺さずにいられないのだそうだ。昆虫学の先生は、「昆虫学を専攻する学生さえも虫が好きではない人が多いんです」と嘆いておられた。

もちろん、世界にも虫好きと呼ばれる人たちは少なからずいて、虫をつかまえたり、飼ったりしている。しかし日本のように、子どもたちの誰もが虫捕りをしたり、カブトムシやスズムシを買ってくるような国はあまり聞かない。

日本人は世界でも稀な、4 国民なのだ。

(稲垣栄洋「身近な虫たちの華麗な生き方」より)

問一 線部A「素手」、B「音色」の読み方をひらがなで答えなさい。

問二 本文からは次の一文が抜けています。この文が入る位置として最適なもの、文中の「ア」「エ」の中から選び、記号で答えなさい。

日本人の虫好きの歴史は古い。

問三 — 線部①「何も知らない宇宙人が地球を観察したとしたら、間違いなく地球の支配者は昆虫だと結論づけるだろう」とありますが、その理由を四十五字以内で説明しなさい。ただし、次の三つの言葉を必ず使うこと。（句読点や記号も字数に数えます。）

昆虫 哺乳類 人類

問四 — 線部②「格好の」の意味として最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 見た目がよい
- イ 恥ずかしくない
- ウ 役に立たない
- エ ちようどよい

問五

1	3
---	---

 に入る言葉の組み合わせとして最適なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ア | 1 | ところが | 2 | ちなみに | 3 | もちろん |
| イ | 1 | だから | 2 | もちろん | 3 | ところで |
| ウ | 1 | しかし | 2 | ちなみに | 3 | だから |
| エ | 1 | ところが | 2 | たとえば | 3 | だから |

問六 — 線部③「戦国武将は兜に前立てと呼ばれる飾りをつけるが、その前立てのモチーフとして好まれたのが、トンボである」とありますが、戦国武将がトンボを好んだ理由を筆者はどう考えていますか。本文中から「」から。」に続く形で十九字で抜き出しなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

問七 — 線部④「虫供養」とはどういう行事ですか。二十字以内で説明しなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

問八 — 線部⑤「虫を供養するような国は他にはないと、海外の研究者にはいつも笑われる」とありますが、海外の研究者が虫を供養することを笑うのはなぜですか。最適なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 海外では、昆虫学が受け入れられていないから。
- イ 海外の人にとって、虫は退治すべきものだから。
- ウ 海外の子供なら、誰でも虫取りをして遊ぶから。
- エ 海外の虫には有害なものが多いから。

問九

4

 に入る言葉として最適なものを、本文中から五字で抜き出しなさい。（句読点や記号も字数に数えます。）

問十 本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本では虫を捕まえたり、飼ったりするのは男の子に限られている。
- イ 日本では、江戸時代にはすでにカブトムシやクワガタを売る人々がいた。
- ウ アメリカでは昆虫学を専攻する学生でさえ、虫を好きではないことが多い。
- エ トンボは、神格化された龍に似ていることから、英語ではドラゴンフライと呼ばれる。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次のア、イ、エの各文において、――線部「ない」の意味・用法が、他の三つと違うものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今日は買い物に行かない。

イ 長野県には海がない。

ウ 妹はなかなか薬を飲まない。

エ 私の家では、食事中にテレビを見ない。

問二 次の文と――線部「の」の意味・用法が同じものを、ア、イ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい

・姉の作ったケーキはいつもおいしい。

ア 彼は走るのが趣味だ。

イ 疲れたので、建物の中で休むことにした。

ウ 私と妹の通った幼稚園は駅前にある。

エ 神社の隣にある池でつりをする。

問三 次の――線部の言葉がかかっている部分を、――線部ア、イ、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

・私は、きつとア今日のイお祭りはウ楽しいだろうとエ思いました。

問四 次の①、②の場合の言い方として正しくなるように、の中に言葉を入れなさい。答えはア、イ、エの中から最適なものを選び、記号で答えなさい。

① 生徒の校内アナウンス……「佐藤先生、職員室に」

ア 来てください。 イ おいでなさい。

ウ おいでください。 エ うかがってください。

② 電車内のアナウンス……「お願いいたします。」

ア お忘れ物をいたさないよう イ お忘れ物しないよう

ウ お忘れ物をなさいませんよう エ お忘れ申し上げないよう

四

次の――線部を、正しく漢字に直しなさい。送りがなが必要なものは、ひらがなで書きなさい。

- ① 医学の進歩がイチジルシイ。
- ② 前向きにケントウする。
- ③ スマートフォンがコシヨウする。
- ④ 期待を上回るジッセキをあげる。
- ⑤ 薬が効果をハツキする。
- ⑥ はさみで布地をタツ。
- ⑦ 友人の成功をヨロコブ。
- ⑧ 糸で人形をアヤツル。
- ⑨ 鳥がえさにムラガル。
- ⑩ ウンガを通つて海に出る。

